

「思いが重なる運動会」

5月19日、中学部一般学級を皮切りに、4つの学習グループごとの運動会を実施。子どもたちも職員も「やり切った」充実感いっぱいの運動会でした。

前日まで降り続いた雨でぬかるんだグラウンドを、早朝から職員や生徒たちで整備。「何とかこの広いグラウンドで伸び伸びと思いきり競技させたい」と願う、職員の熱い思いが自身を泥だらけにしながらかグラウンドを整備する職員の背中から溢れていました。開会すると、特別支援学校特有の「ゆったりした」「心地よい」時間が流れます。すべての児童生徒がスタート位置につくまで、そして自らゴールテープを切るまで、「声掛け」「励まし」そして「待つ」。「励まし」はあっても、急がせることはありません。「徒競走」や「綱引き」など、定番の競技に加えて、それぞれの子どもができる動きに合わせて工夫された競技内容。子どもたちの懸命で真剣な眼差し。たくましく成長した姿に、身を乗り出して声援を送りながら、最後まで温かく見守ってくださる保護者の皆さん。「お手伝いできる日を楽しみにしていました！」と駆けつけてくださったボランティア共生大学の皆さんや旧職員の皆さん。それぞれの思いが重なった運動会となりました。